

## SYSCOM グループ、日本企業との協業でクラウドサービスを提供

【2010-11-05 中央社】

台湾のSI企業SYSCOMグループは、本日(11/5)、日本の著名なソフトウェア企業東京システムハウス(以後TSH)、ビック東海グループと共同で3社が共同開発したクラウドサービス『MMS+CLOUD』を提供することを発表した。また、将来的には、中国市場に進出し、日本、台湾、中国の3地域の協力関係『ゴールドトライアングル』モデルを定着させていく予定だ。

同社総経理劉瑞隆氏は「弊社とTSH様、ビック東海様との協業でクラウド分野のビジネスチャンスをつかむことだけではなく、中国市場にクラウドサービス『MMS+CLOUD』を提供することで日本の『開発、ブランド』、台湾の『運営管理』、中国の『生産コスト市場』を活用した協力関係『ゴールドトライアングル』モデルを構築することにあります。」とも語った。

『MMS+CLOUD』はTSH社が初めて提供するクラウド分野のソリューションである。劉氏は次のように語った。

「本ソリューションは日本、台湾、中国の優位性を融合させて構築した協力関係『ゴールドトライアングル』の成果でもあります。また、現在、日本企業と中国企業は瀬クラウド分野に対して積極的な動きをみせています。中国企業は国際市場に進出し、先進技術を導入したいと考えており、日本企業は中国の大規模で将来性のあるSI市場に着目しており、中国市場の開拓を目標としています。その中で台湾は両者とも密接な関係があり重要な役割を担うことができます。」

SYSCOMグループの計画ではまず、日本市場で『MMS+CLOUD』を提供し、将来的には日本市場のノウハウを台湾、中国市場に展開する予定だ。(邱國強 / 台北)